

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901734	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 宗得会		
事業所名	グループホームつばき		
所在地	(〒238-0311) 横須賀市太田和2-10-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年6月1日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「MMA」+「K」見逃さない・見捨てない・あきらめない・そして考える。 今まで以上に考えることに力を入れ、職員一丸となって取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年3月4日	評価機関 評価決定日	平成31年4月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、JR横須賀線衣笠駅または逗子駅、京浜急行線横須賀中央駅などから京急バスを利用して、大田和バス停下車徒歩5分程度の場所にある。周辺は、所々に畑地が残り、緑豊かな丘陵地が臨まれる閑静な住宅地である。隣接地には同一法人が運営する特別養護老人ホーム等の施設・事業所が立地している。建物は軽量鉄骨造平屋建て、2ユニットの事業所である。敷地が広いので、中庭を配するなどゆったりとした設計になっている。 【開放的で自由な生活】 事業所の門扉、玄関、ユニット入り口とも施錠が無く出入りが自由になっている。居室からも直接、庭に出られるなど利用者の自由な行動が保障されている。事務室は、両ユニットの玄関に面しており、利用者を見守り易い構造になっている。リビングや廊下などの共用空間には、季節を感じさせる飾り付けやボランティアが制作した油絵などがあり落ち着いた住み心地の良い空間を演出している。職員は、事業所理念や運営方針、ユニット別のケア目標、月次目標に沿ったケアの実践により、利用者の開放的で自由な生活を支えている。 【利用者家族との連携】 毎月、家族あてに利用者と職員の手書きの便りを送って、利用者の日々の生活の様子を伝えている。家族は、利用者の短いが気持ちの籠った便りを楽しみにしている。職員は、家族会や敬老会で家族と意見交換をしたり、家族が面会で来訪する際に積極的に話を聴くなど、家族との連携を深めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者およびその家族の思いを踏まえた理念を、事業所内研修や施設内掲示で確認しながら実践している。	事業所理念は、分かりやすく「見逃さない、見捨てない、諦めない、考え抜く」にまとめている。理念をユニット別の運営方針、月次目標として具体化し、実践につなげている。毎年度の事業計画に明記したり、目に付きやすい場所に掲示して全職員が理念を共有できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解して頂いている。また日常生活においても散歩や買い物、回覧板、地域行事などを通じて交流を深めている。	町内会に加入しており、町内の盆踊りは、隣にある法人運営の特別養護老人ホームの敷地で開催されている。秋祭りには子供会の獅子舞の来訪がある。福祉専門学校の実習や大学生の教育実習、中学生の体験学習の受け入れをしている。	地域との交流を広げるために、地域ボランティアの受け入れを検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の介護専門学校に通っている学生の実習先として、また、地元の中学生の体験学習の場として提供しています。また、認知症の方のご家族の相談や見学を受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者等に参加して頂き、施設の状況報告への意見や参加者からの地域情報など施設ケアの参考にさせて頂いている。	会議は2カ月に1回開催されており、利用者家族、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員の参加がある。市の担当職員の参加も年1回ある。会議では、運営状況の報告をもとに意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所説明会や実施指導等により、意見交換や指導を仰いでいる。	市の担当課の職員が運営推進会議に参加しており、人材不足の相談等をしている。市主催の新人職員研修や市保健所主催の「感染症予防講演会」に参加している。国、県のグループホーム連絡会の会議や研修に参加し、国の制度改正等の情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修などで学習に努めています。また、身体拘束について十分理解しながらケアに取り組んでいます。完全な理解は至ってはいません。	門扉、玄関、ユニット入り口には施錠がなく自由に出入りができる。居室からも直接庭に出られるなど、拘束の無い生活を徹底している。利用者は拘束がない安心感や職員への信頼感から不意の外出は見られない。3か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催し、日々の言葉かけや誘導が、利用者にとってどう受け止められているか等を繰り返し確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会やカンファレンス等で常に確認しながら防止に努め、部内研修でも学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部内研修でも定期的に学習しており、年に数名は部外研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を結ぶ時は、時間をかけて十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所会議で話し合う機会を設け、また普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。意見箱を設置している。	意見箱を設置しており、家族会や敬老会の開催時や、ケアプランの説明等の際に家族等の意見を聴いている。利用者の生活の様子を伝えるため、家族に毎月、利用者や職員の手書きの便りを送っており、家族との信頼関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会で機会を設けているが、日頃からいつでも管理者と話せる機会があり、意見や提案もできる環境にある。	全体研修会とユニットごとのカンファレンスを定期的に行い、意見交換をしている。毎月の全体研修会では年間計画を作成して計画的、体系的な研修を実施している。ホーム長は、年2回実施している人事考課の職員面談で職員の意向を聞いている。ベテラン職員を中心に業務の見直しに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修や勉強会を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加や、グループホーム連絡協議会の役員会に参加し、交流の機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人と面接の機会を持ち、話を伺う機会を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至る前に本人との面接を持ち話を聞く機会をつくり、本人や家族への要望や悩み事を傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話し合いのなかから必要としているサービスや支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除洗濯等の家事をやったり、お話や散歩、買い物などを通して両者の信頼関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもお願いできることはしてもらい、散歩や受診、餅つき等の行事への参加等、手伝ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようになっており、家族や友人が来たり、外出も家族同伴で自由にできる。買い物の帰りに本人の馴染みの場所をドライブもしている。	利用者の高齢化により以前ほどではないが、友人、知人の訪問があり、職員は歓迎している。家族とホーム入居前の住居に行ったり、墓参りに出かけている。以前から続けている縫物、編み物、カラオケをしている利用者もいる。年賀状のやり取りの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人を理解し、お互いの関係を把握し、また孤立せずにお互いが支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動した場合は面会に行ったり、亡くなられた場合、その後も行事への招待を家族へ行き、できる限り相談や支援を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にご本人やご家族の意向は確認しているが、意志表示の難しい入居者の方には、日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心がけながら確認している。	職員は、利用者の思いや意向を引き出せるように意識的に声掛けをしている。家族とも情報交換をして共有できるように努めている。ユニットを2つのグループに分け、それに応じて職員は2チーム体制をとり、チームごとにそれぞれのグループに関わることにより、少人数での家庭的な雰囲気での支援ができるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や本人・家族へ聞き取りを行い、サービスの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の日常生活の中で確認しながら心身及び総合的に現状を把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・計画作成者を中心に皆で話し合い、取り組んでいる。	当初の介護計画は、入居前のアセスメントに基づいて作成し、モニタリングを経て、2～3ヶ月後に見直している。その後は6か月ごとに定期的に見直しを行っている。状況に変化があればその都度対応している。サービス内容は「実施モニタリング表」により、毎日丁寧にチェックをしている。担当職員からの情報をもとに、計画作成担当者が作成した計画の見直し案について、カンファレンスで意見交換している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援・経過記録の他、医療ノートを用いて個別記録に記入し、職員全員で実践し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化した為家族の意向で法人内部の事業所（特養）へ移動された方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特になし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族協力のもと適切な医療を受診できるように支援している。往診には内科・歯科が週1回きている。	協力医療機関の医師及び歯科医師の訪問が週1回あるが、従前からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。眼科、皮膚科、整形外科などの専門科には、家族付き添いで通院しており、状況によって職員が付き添うこともある。非常勤の看護師が配置され、利用者の健康管理に当たっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療ノートや電話対応により入居者の相談を24時間できる体制をもっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合には、家族と協力しながらできる限り面会し病院側からの情報を得ている。また退院へのアプローチも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・かかりつけ医との繰り返しの話し合いや、終末期意向アンケートを用いて全員で方針を共有している。	入居時に、利用者、家族に「看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。終末期には、改めて「看取り介護についての同意書」により意向を確認し、今年度も看取りを実施している。毎年2回「ターミナルケアについて」をテーマに職員研修を実施し、看取りの方針について確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、その都度研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体やグループホーム内研修において訓練を行っている。グループホームと地域との正式な協力体制はできていない。	年2回防災訓練を実施し、うち1回は夜間想定である。町内会との防災協定を結んでおり災害時の協力体制を築いている。災害時には、隣接の特別養護老人ホームや近隣住民の協力が得られる関係がある。災害備蓄は、食料、飲料水とも3日分あり、備蓄リストを事務室に掲示して、全職員が確認できるようにしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーを尊重した言葉かけや対応をしている。	日頃から、丁寧な言葉遣いを心がけ、排泄介助に際しては、利用者の羞恥心に配慮した対応をしている。門扉、玄関等は施錠しないなど、利用者の人格を尊重した拘束の無い自由な生活が出来るように支援している。人権や身体拘束、個人情報保護などの研修を毎年計画的に実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度確認したり説明をして本人が決められる様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら、都度確認をしたりして、本人の希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時・行事等では衣服の選択や化粧などの支援を行っている。また、月1回の理髪店の出張サービスによりヘアカットしている。（ご家族と外出してカットしている方もおります。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必要に応じてメニューを変更したり、誕生会等では事前に好みを聞きメニューを考えている。支度や片付けもできる範囲で一緒に行なっている。	献立と食材は業者委託しており、職員が調理している。利用者は、下拵え、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭きなど出来ることをしている。車椅子利用者は、食堂の椅子に移動している。身体に合わせて足台を用意するなど、一人ひとりが食事を楽しめる工夫をしている。正月、敬老会、クリスマス会、誕生会には、それぞれ特別な食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量は一人一人に合わせている。また状況に合わせて捕食等も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食毎の口腔ケアを行い必要に応じて職員の補助を行っている。また歯科受診を受けている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用を続けており、時間をみながら声掛けを行っている。	排泄チェックシートで一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間も同様に定期的に声掛けを行っている。利用者用トイレは、各ユニットに4か所あり、そのうち2か所ずつは車椅子で利用できるスペースがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩・食事やヨーグルト・乳飲料・オリゴ糖などを活用している。排泄時ウォシュレットを使って刺激したり、腹部マッサージもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望に沿うように入浴できるよう支援している。シャワー浴や足浴対応も行っている。	週2回の入浴を原則としている。浴室の1つは、檜造りの浴槽を設置しているのが特徴となっている。2浴室ともリフト付きで、専用の椅子に座って安全に入浴ができる。足浴も行っており、気軽に利用できるのが好評である。入浴剤や季節の菖蒲湯。柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室で休め、リネン交換・空調機・湯たんぽの使用等、安眠できるようにしている。ベッドに限らずソファでも休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用、量等をラックに記してあり、また各薬の担当を決め職員が十分理解し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、ドライブ、散歩や歌、ボランティアの先生によるちぎり絵など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、少人数制による外食、買い物、家族との外出や施設行事での外出・外食等で楽しんで頂いている。	天気の良い日には、車椅子利用の方も近隣を散歩している。玄関先や中庭等に自由に出て外気浴ができる環境である。法人所有のワゴン車で遠出をしている。三浦海岸の河津桜、葉山のつつじ、湘南国際村のアジサイの見物やミカン狩り、ソレイユの丘などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人で金銭管理をしている方はいない。 買い物の際も職員が代行して、本人の目の前で支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りでは代筆という形で書いたりもするが、書ける方には本人に書いていただき、電話をかけた際にはかけられるように支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い建物・土地と静かな住宅地ということで生活環境は良いと思われる。	居間兼食堂は、広い中庭に面して大きな開口部があり、明るく開放的である。玄関や廊下には、ソファやベンチが設置され、利用者は休憩などに利用している。天井の高い回廊式の廊下が特徴となっており、広々とした壁面には、ボランティアが制作した絵画等が飾られ落ち着いた雰囲気になっている。誕生会やクリスマス会等の行事写真等が掲示され、ホームの生活の様子を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下のソファ、玄関先のベンチ・リビングのソファなどでくつろげるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で本人や家族でレイアウトされたり、なじみの物を置かれている方もいる。（花や仏壇など）	居室は8畳ほどで広くゆったりしている。平屋建であるため、すべての居室から庭に出入りが自由で開放的である。エアコン、換気扇、洗面台、クローゼットが備え付けとなっている。整理ダンス、テーブル、椅子などは馴染みの物を持ち込んでいる。利用者の状況によっては、事業所で空気清浄機を用意している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車イスも使用でき、手すりや部屋毎の表札、トイレや風呂の表示もされている。		

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者及びその家族の思いを踏まえた理念を施設内研修で確認しながら、また、廊下に貼っていつでも確認できるようにして、皆で共有して実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域代表の方や、民生委員の方も参加している。餅つきでは入居者も一緒に楽しんでいる。また、地域の方々と一緒に近くの公園でラジオ体操を行ったり、回覧板を届けるなどして交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や大学生の体験学習を通して認知症を身近に感じてもらうことで、認知症であっても、自律した生活を送っていることを理解していただけるよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者に参加していただき、施設の状況報告に対して、意見をいただいたり、参加者からの地域情報や災害時の予想される状況などは施設としてどうしていく必要があるのか意見交換をしている		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所説明会や運営推進会議などにより、意見交換や指導を仰いでいる		
---	---	--	----------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を発足し3ヶ月に一度委員会を開催し、ユニットの状況を把握して意見交換をしている。また、事例検討も行っている。他職員には施設内研修で定期的に学んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行っている。グレーゾーンに対しても虐待につながることを理解してもらい防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際には十分な説明を行い、不安や疑問がないかを確認しながら理解、納得をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や敬老会などの行事のときに話し合う機会を設けているが、普段の来所時でも気軽に話ができる雰囲気を作っている。また、意見箱があることも伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内研修で意見を言う機会を設けている。日頃から管理者と話し、提案や意見を言える環境にある。管理者は意見や提案に対し必要なことであれば、業務などに反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修などを積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年間を通じて、内部・外部研修や会議などを積極的に進め、施設職員及び外部関係者が共に向上できるように取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人との面接時間を持ち、話を伺う機会を設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面接時間を持ち、要望や悩み事を伺う機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話の中から必要なサービスや支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースを尊重しながら、職員と一緒に家事を行ったり、ゆっくりとお互いの話をする時間を設け関係性を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に受診や外出、衣類の入れ替えなどをお願いしてご本人との関わりを意識的にしていただき、共にご本人を支えていく関係性を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の許可があれば、今までの近所の方や馴染みの方が気軽に面会にいらっしゃっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に寛げるように関係の把握はもちろんだが、特定の人に対していじめたりすることがないように、入居者同士が支えあって生活できるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、手紙を出したり、会いに行って関係性を継続するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向は日々の生活の中で把握に努めている。また、ご家族の意向も来所時に伺っている。意思表示の難しい方はその方に望ましいと思われる対応を心がけている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族から聞き取りを行い、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の生活の中で、観察しながらペース、心身状態、できる事、できない事などの把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で見えてきた課題を職員、計画作成者、ご本人、ご家族と話し合い意向などを踏まえ介護計画を作成している。また、毎日モニタリングを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録、医療記録、ケアプラン実施記録等に記録し、職員間で情報を共有している。また、気づきなどは、チームでの話し合いや、カンファレンス等で話し合うことで、実践や介護計画の見直しにつなげている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パッドは市の支給を申請している。また出張美容サービスや、出張マッサージを利用している方もいらっしゃる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特になし		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、歯科等は往診を受けている。 入居前からのかかりつけ医にご家族対応で受診されている方もいらっしゃる		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の勤務日には申し送りをし、気になっている事などを相談しアドバイスをもらっている。24時間オンコール体制となっているので、緊急時にも連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院したときは、職員が頻回に面会し、病院関係者から情報を得ながら、早期退院へのアプローチを心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一年に一回、重度化や終末期のことを考えていただけるよう話しをして、意向を伺っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、施設内研修を行っている。応急手当の訓練は不定期である		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内研修で定期的に訓練を行っている。また、同法人の特養とも連携をとり、災害対策に備えている。地域と災害時の協定を結んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない対応を徹底している。記録類はファイルに綴じ管理している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度ご本人に確認したり、説明を行って自己決定できるよう努めている。また、日々の生活の中でご本人が思いを表出できる環境を整えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、その都度確認しながら、ご本人の希望に添える様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時、行事などでは身だしなみはもちろんだが、おしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はほとんどの方が楽しみにしている。一緒に準備したり、片づけも行っている。時には好きなおやつや、普段食べない様な豪華な食事やおやつなどにして楽しんでいただける様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量は一人一人に合わせている。職員が水分摂取の重要性を理解しているため、こまめに水分補給を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の1日4回の口腔ケアに努めている。口腔内の衛生、義歯の清潔管理を行い、その人に合った支援をしている うがいができない方には口腔内シートを使用し、磨いた後シートで汚れを拭き取っている 口腔内の問題が生じたときは、歯科医に相談し指示を仰いでいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導し排泄できるよう努力している。パッドを使用している方にも状態に応じて見直しを行い適切な物を使用している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩いていただいたり、体操を行っている。水分量にも気をつけている。一人一人の排便状況を把握して食物繊維食品やオリゴ糖等も使用している		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望に添える様努力している		
----	----	--	--------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも清潔な寝具で休める様にリネン交換、ベッドメイキング、室温、湿度には気を配っている。冬には湯たんぽを使用し、安眠につながるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的、用法、容量を職員が充分理解した上で服用支援をしている。また、新しい薬が処方されたときは、副作用が出る可能性も考え、入居者の状態変化の確認をいつも以上に気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った家事を入居者同士で協力し合って行えるよう環境を整えている。散歩や外気浴などで気分転換もしていただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、ご家族との外出、ドライブ等で外出を楽しんでいただいている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分で管理できる方がいらっしゃらないので、施設で管理している預かり金からご家族の許可をとって、希望の物を購入することもある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書ける方には、月に一回ご家族へ手紙を書いていただいている。一名の入居者は携帯電話を持っているため、自由にご家族へかけて近況を話したり、持ってきてほしいものを伝えたりしている。親しい方からかかってきて話しをしていることもある		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が広く造られているため、圧迫感はなく、生活環境は良好と思われる。日当たりが良い廊下には日光浴ができるように椅子をおいている。季節を感じられる場所となっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆と一緒にいる事が疲れたときなどは、廊下などのソファに座り静かな空間で過ごしたり、玄関先で気分転換ができるようにしている。玄関先は気の合う方たちと一緒に出てくる事もある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の好みで自由にレイアウトされている。使い慣れた家具などを配置されている方もいらっしゃる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、車椅子でも安全に使用できる。手すりもあり自力歩行がしやすくなっている。各居室や、トイレなどには表札があるため、分かりやすくなっている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 平成31年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流を広げるために、地域ボランティアの受け入れを検討されることを期待します。	地域住民との交流を増やし、認知症の方の理解を深めてもらい、ボランティア活動を含め防災の支援協力などして頂きたい。	近隣に住んでいるご家族やその知り合い等に施設の外回りのボランティア活動をお願いしながら少しずつ施設事業にも関わって頂き、近隣住民との関係を深めていきたい。	令和元年5月1日～令和2年4月30日 (1年間)
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。